

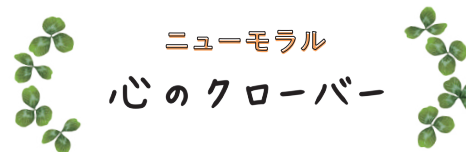


“ 週初めのミーティングで「学び」と「気づき」をシェア ”

毎日の生活の中で
こんなことを意識してみませんか？
メモ欄は週間目標の記入等にご活用ください



社員教育へのご活用は
こちらから



第 4 週

一隅を照らす生き方

東洋思想の研究と後進の育成に努めた安岡正篤氏（1898～1983）は、「暗黒を嘆くより、（中略）我々はまず我々の周囲の暗を照らす一燈になりましょう。手のとどく限り、至る所に燈明を供えましょう。一人一燈なれば、萬人萬燈です」（『安岡正篤一日一言』致知出版社）という言葉を残しています。

社会の現状を嘆くのではなく、自分が温かい心を発揮して、身近な「一隅」を照らす存在になる。そうした一人の真摯な取り組みは周囲の人々の心を動かして、同じ思いで実践しようとする協力者や支援者が現れることもあるでしょう。

一つ一つの光は小さくとも、その数が増えていけば、社会全体を照らす大きな力になっていくのではないのでしょうか。



MEMO

メモ

第 3 週

相手の立場に立った 交通ボランティア

Kさんは毎朝、地元の小中学生の通学路で交通安全ボランティアをしています。通勤ラッシュで車が多くなる時間に信号のない交差点に立ち、子供たちを安全に横断させるというものです。

「最初は笛を鳴らして車を止めていたのですが、今は吹きません。無理に止められたドライバーがイライラして、よそで事故を起こすかもしれないからです。だから、まずは車を通してから子供たちを渡すんです」と話すKさん。

今ではKさんの姿を見ると、自然と停車するドライバーも増えているそうです。「待たせてすみません」と会釈するKさんに「お互いさまですよ」と返すドライバー。温かい人間関係は思いやりの心から生まれるのです。



MEMO

メモ

第 2 週

「正しいこと」に ご用心

「正しいこと」をしているのに、いつの間にか周囲から疎まれるようになっていた、という経験はありませんか。

社会の秩序を保つ上でルールやマナーを守るという「正しいこと」は大切です。とはいえ、「正しいこと」を振りかざして周囲を非難ばかりしては、良好な人間関係は築けません。

私たちは人の不正はよく見えても、自分の間違いにはなかなか気づかないものです。知らず知らずのうちに周囲に迷惑をかけていることもあるでしょう。自分がそれを指摘されたら……と考えてみることも大切です。どんなときも相手の立場や状況を思いやれる人こそ、皆から親しまれ、良い人間関係を築いていけるのではないのでしょうか。



MEMO

メモ

第 1 週

51対49

臨床心理学者の河合隼雄氏（1928～2007）は、「心の中のことは、だいたい51対49くらいのところで勝負がついていることが多い」（『こころの処方箋』新潮文庫）と述べています。悪いことをする人も、初めから「悪心が100%」ということはないのでしょうか。

「人心これ危うく、道心これ微かなり」（『尚書』）というように、人間の心とは大変危ういものです。誰もが生まれながらにして「良心」を持っていても、生活の中では魔が差すこともあります。

「悪心」のはたらきを抑え、自分の中にある「美しい心」をしっかりと発揮できるようにする。そのためには日々小さな善行を積み重ねていくことも大切ではないのでしょうか。



MEMO

メモ